

# 随泉寺寺報

平成 25 年（2013 年） 7 月号 第 5 1 5 号

TEL 082-892-0217 <http://www.zuisenji.com>

浄土真宗本願寺派 高峯山随泉寺

安居会法座

講師 教雲寺住職 藤井聡之師

講題 『苦悩を抱えたままの救い』

■安居とは、雨期を意味する梵語の varsika（又は varsa。尚、パーリ語では vassa）を漢語に訳したもの。

本来の目的は雨期には草木が生え繁り、昆虫、蛇などの数多くの小動物が活動するため、インドの僧伽で遊行（外での修行）をやめて一カ所に定住することにより、小動物に対する無用な殺生を防ぐようになった。後に雨期のある夏に行う事から、夏安居（げあんご）、雨安居（うあんご）とも呼ばれるようになった

これは仏教が伝播した国々でも、雨季の有無にかかわらずおこなわれ、多くは 4 月 15 日から 7 月 15 日までの 90 日であった。これを一夏九旬といって、各教団や大寺院でいろいろの安居行事がある。安居の開始は結夏（けつげ）といい、終了は解夏（げげ）というが、解夏の日には多くの供養があるので、僧侶は満腹するまで食べる。農家が多い地域では、農作業が一段落した頃に勤められるので、どろおとし、という言い方もあります。生活の中に密接に溶け込みながら、年間に多くの方が仏教のお話しを楽しみにされています。

## 7 月の法座予定

7 月 2 日（火）……………本部役員会

7 月 7 日（日）……………掃除 鴨の巣

7 月 14 日（日）昼席午後 1 時……………初参式

7 月 15 日（月）朝席午前 10 時より……門信徒の集い 引き続き門信徒会総会

7 月 15 日（月）昼席午後 1 時より……………安居会法座



## ☆ 初参式

7 月 14 日午後 1 時より平成 24 年生まれの子供さんの初参式を勤めます。どうぞ奮ってご参加下さい。ちょうど日曜日にあたりますので、遠くに居られるお孫さんにも声をかけてください。浄土真宗の門信徒のご家庭に生まれた赤ちゃんが初めてお寺にお参りする「初参式」は、尊いご縁によって恵まれた新しいのちを阿弥陀如来さまの御前にて、ご家族、また縁ある方々そろってお祝いし、感謝するお式です。



そもそも、お寺や神社に人はなぜ我が子を連れてお参りするのでしょうか？それは「この子が健やかに成長しますように……」と願う為でしょう。親としての偽りのない願いです。「この子が健やかに成長しますように……。」しかし、この世界は無常で、人生には何事が起こるか分かりません。遭いたくないことにも遭うかもしれません。いや、必ず遭ってしまうでしょう。怪我や病気、さまざまな苦しいこと。悲しいこと。しかし、それが現実なのです。

「我が子に何事があろうとも、私はこの子の親として、この子に寄り添い続けます。この子の人生にどんなことがあっても、私はこの子の親であり続けます」と、アミダ如来様に誓う式が浄土真宗の「初参式」なのです。

アミダ如来というみほとけが、いつでもどこでも、どんな時でもこの私を一人子のように思い、共にあり続けて下さっているからです。もっと言うと、僕が忘れていた時も、調子に乗って浮かれている時にも、常に案じ続けて下さっているのです。

我が子が喜ぶ時には共に喜び、我が子が悲しみにある時には共に悲しむのがアミダ様のお心なら、そのお心に出遇った私は、アミダ様のようにというは無理だが、せめて我が子に対して親であり続けたいと願いを持つのです。



## ☆ 門信徒会総会 7 月 15 日朝席終了後～

7 月 15 日朝席終了後門信徒会の総会を開催いたします。平成 24 年度の行事報告、決算、平成 25 年度の行事予定、予算等を審議していただきます。

## ☆御礼

永代経懋志	金	拾萬円	中垣 憲彦殿	故 中垣ミチエ様	特 永代経志として
永代経懋志	金	貳拾萬円	坪田 末義殿	先祖一切の	特 永代経志として
永代経懋志	金	拾萬円	今岡 孝行殿	故 今岡 妙子様	特 永代経志として

## ☆御礼

門信徒会へ	金	一封	中垣 憲彦殿	故 中垣 ミチエ様	香典返しとして
門信徒会へ	金	一封	坪田 末義殿		
門信徒会へ	金	一封	今岡 孝行殿	故 今岡 妙子様	香典返しとして

7月

「信心をはなれて仏さまというものはないものです」（曾我 深）

宗教、佛教について、二つの立場が考えられます。

一つは外から眺める立場です。ちょうど地図を眺めるように、あの道もある、この道もある、こちらは景色が良いけれど、遠回りになる等と喩えることができます。

様々の宗教がありますから、これも自然なことですが、時には、政治に利用されたり、お金儲けに利用されて、困ったことが起こります。

もう一つは、中に入ることです。喩えを借りますと、地図ではなく、実際に道を歩くことです。



いくつ道が有っても、自分が歩けるのは一つしかありません。

私達で言えば、親鸞聖人の教えに生きる、浄土真宗に生きることです。それは、自ら、南無阿弥陀仏とお念仏申すことであり、阿弥陀如来さまのお慈悲を味わうことです。

それまで遠くにいらっしゃると思われた阿弥陀如来さまが、南無阿弥陀仏となつて今、私の中に来て下さっていること、こちらで捕まえるのではなく、阿弥陀如来さまに喚びかけられていることに気付くのです。

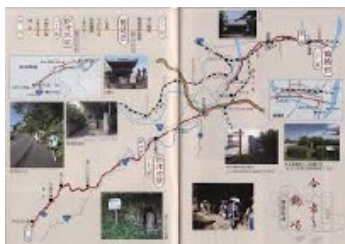
阿弥陀如来さまのお慈悲に支えられ、導かれて、共に手を取って歩むことです。御同朋御同行と歩む人生です。

浄土真宗本願寺派門主 大谷光真著「あけぼのすぎ」― 浄土真宗一口法話 ―

《揉まれねば この味は出 新茶かな》

新茶の季節です。昔、子供の頃、お茶の葉っぱが、青々と育ってくると、お茶摘をしました。畑の端の道のほとりにお茶の木が植えてあり、どこのおうちも我が家のお茶は自分のうちで作っていました。私も腰に**びく**をつけてもらい、お茶摘をしました。若葉のまだ柔らかい新芽を摘んで、それを蒸して、それから筵の上で手で揉むのです。気がつくとお茶の葉っぱの色で緑になっていました。においもお茶のにおいがしみこんで、すがすがしい匂いがしていました。それから筵の上で天日干しをしたのか、ほうろくで炒った覚えがありますが、定かではありません。しかしあの匂いと手のみどりに染まった記憶は懐かしい季節の行事でした。

手で揉んだお茶の味は、機械で操んだお茶に比べてコクがまるで違います。



それは「揉」という字のとおり、人の手で心をこめて柔らかくもむからでしょう。

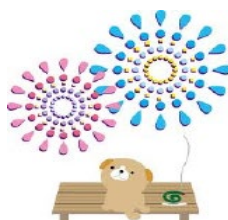


苦に揉まれることは、人間を深めることになるのです。

人の世は無常で、予期せ 苦が訪れます。愛する人と れたり、病気をしたり怪我をしたりします。そんな時、人によっては人生がガタガタと崩れることもあります。人によっては見事にそれを克服して、不幸にあう以前にも増してたくましくなる人があります。

問題の分かれ目は、苦や不幸とのつきあい方の違いではないでしょうか。長い一生、不幸や苦が続くはずはないのです。今、遭遇したこの苦、逆縁も、自分をさらにたくましくし、お茶のようにコクのある人間にさせてもらうためのご縁であると受け取れば、きっといつかは一段と味のあ

## ※ 安芸北組少年少女研修会 募集のご案内



平成25年度の安芸北組の子ども会の募集の案内です。今年は随泉寺の子ども会が開催されないので、安芸北組の子供会に参加してください。若院もスタッフで同行する予定なので、ふるって参加してください。

日 時：平成25年8月19日（月）～8月21日（水）

場 所：山県郡北広島町志路原 471 浄土寺

参加募集対象： 小学4年生～中学3年生の門信徒の子弟

参加費：5,000円



内容：お寺に泊まって仏様のお話や、室内オリンピック、追跡ハイキング、宝探し等の楽しい企画が用意されています。夏休みの楽しい思い出や新しい友達が出来ることと思います。お孫さんや、子供さんに勧めてみてください。

